

TV 報道検証【報道特集】 報告書

テレビ局：TBS	番組名：報道特集	放送日：2020年1月25日
出演者：金平茂紀、日下部正樹、膳場貴子、宇内梨沙		
検証テーマ：オープニング、日韓関係、河野防衛大臣がたかなみを視察 【特集】イランとアメリカ～対立の原点		
報道トピック一覧 <ul style="list-style-type: none"> ・ 新型ウイルス感染が日本で3人目 ・ オープニング ・ 河井夫妻の疑惑 ・ 愛知県刈谷市のマンホールで作業員が事故 ・ 日韓関係 ・ 河野防衛大臣がたかなみを視察 ・ 埼玉県でLGBTの成人式開催 ・ 群馬県桐生市で暴力団男性組員が射殺される ・ 【特集】感染拡大！新型肺炎の驚異 ・ 【特集】イランとアメリカ～対立の原点 ・ スポーツ報道 		
放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨 <ul style="list-style-type: none"> ・ オープニング：結論→特に問題なし 番組のオープニングで金平キャスター「ええ、通常国会が始まりました、桜を見る会、IR疑惑、河井前法務大臣夫妻の疑惑、これらに対する首相の答弁を聞いておりますと、責任という言葉がもはや死語になったかのようです、去年なくなった日本人医師、中村哲さんの言葉が身にしみます、口先だけではなく、行動で示せ。」とコメントしていた。 このトピックに当てられた時間は20秒で放送法上は特に問題は見られなかった。 ・ 河井夫妻の疑惑： 膳場キャスターの「ではニュースをお伝えします、自民党河井議員夫妻の公職選挙法違反事件、広島地検は去年の参議院選挙で妻の案里氏の陣営が選挙スタッフに法定上限額を超える報酬を支払った疑いで捜査しています。」、日下部キャスターの「こうした中、陣営の関係者2人がJNNの取材に応じ、選挙戦の詳細を語りました。」とのコメントのあとに以下に朱記したようなVTRが取り上げられていた。 "河井陣営関係者「僕、以前にも河井克行先生の、衆議院の選挙を手伝ったことがあります、もうその時には既に、30000円というのはもう常態化していました、」 ナレ「こう語るのは河井案里陣営でウグイス嬢と呼ばれるスタッフの手配を依頼した男性です。河井克行議員の選挙戦では以前では法定上限額の15000円を超える30000円の日当を支払うことになっていて、その仕組が案里氏の選挙戦でも引き継がれていた、と証言しました。また、報酬を含め、陣営内には独特の慣習があり、河井ルールと言われていたということです。案里陣営のウグイス嬢集めに関わった女性はこう話します。」" 		

"ウグイス嬢集めに関わった女性「喋り始めて、克幸さんが声が気に入らなければチェンジ、チェンジというアクションが出て、」

金平茂紀「これ、チェンジっていう、このアクション、これも河井ルール。」

ウグイス嬢集めに関わった女性「そうすると、すぐに、即座に変わらなければいけない、なので、決定権とか全ての主導権は河井克行さんにあったからこそ生まれた言葉だと私は思っています。」

ナレ「疑惑が報道され始めると河井事務所の秘書から男性に何度も電話がかかり、出ないでいると秘書は男性の家族にこう語ったと言います。」

河井陣営関係者「あなた達は何も心配しなくていい、なので弁護士さんと話をしてほしい、すり合わせてほしい、というふうに言われました、それを僕に伝えてほしい、と。」

ナレ「河井案里銀、克行議員の事務所は取材に対し、現在刑事事件の捜査が行われているので、弁護士と相談し、まずは捜査にしっかりと協力し、報道されたことについては後日きちんと説明をしていく、としています。」

ウグイス嬢集めに関わった女性「説明ができないと言ったことはまずありえないことではないかと思っています。有権者を代表して国会に押し上げられたのであれば、そういう説明はせめてしてほしい。」 "

このトピックに当てられた時間は 172 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・日韓関係：結論→問題あり

膳場キャスターの「次はシリーズでお伝えしている JNN 海外支局のレポートです。」というコメント、日下部キャスターの「戦後最悪とも言われる日韓関係、今年、どこへ向かうのかのでしょうか、今日はソウルからの報告です。」というコメントを受けて以下に朱記したような VTR が取り上げられていた。

"ムン・ジェイン大統領「額を突き合わせて知恵を集めれば日韓関係を十分に解決できる余地はある。」

ナレ「去年、悪化の一途をたどった日韓関係についてムン・ジェイン大統領は年頭の会見で改善への意欲を示し、強硬姿勢を一旦封印しました。」

ソウル市民「NO NO NO NO NO ABE」

曾根英介（報告）「日本に講義する集会が毎週のように開かれていたソウルも平穏さを取り戻しています。ただ、政治的な対立を生んだ日本への反感は民間に波及し形を変えて根付きつつあります。」

ナレ「一次の熱狂は冷め、不買運動への参加を強いるような空気は薄れましたが、一方で。」

日本風居酒屋の客 A「去年はみな不買運動を口に出してやっていたのですが、今は口に出さなくても習慣になっています。」

ナレ「店頭に掲げていた日本製品は売らないという看板を撤去したスーパーもあります。」

スーパーの店長「最初はなぜ日本製品がないのかと聞かれましたが、今は最初からないと知っているからお客さんは探しません。応援してくれるお客さんがたくさんいます。」

ナレ「不買運動は韓国市民の生活に溶け込みつつあり、民間への影響を重く見た日韓両政府は関係改善に向けた対話を続けることで一致をしました。」 "

安倍総理「韓国側が日韓関係を健全な関係に戻していくきっかけを作るよう、求めました。対話による解決の重要性については確認をしたところであります。」

ナレ「韓国最高裁が日本企業に対し、元徴用工らへの賠償を命じた判決以降、判決を尊重するとする韓国政府と国際法違反の状態を是正するよう求める日本政府の主張は平行線をたどり、互いに原則を譲る気配は見られません。事態打開の糸口が見つからない中、韓国では国会議長らが解決策とする法案を提出したり、原告側が日韓共同の協議会の設立を提案したりと言った動きが出ています。」

"ムン・ジェイン大統領「韓国政府は既に何度も解決策を提示した。。日本も解決策を示し、韓国と知恵を集めて考えるべきだ。」

ナレ「しかし、そもそもムン大統領自身が思い切った政治的決断を下せるかどうかは不透明です、米朝交渉、南北関係の膠着や長引く景気の低迷で中間層の信頼を失いつつある中で徴用工問題で譲歩したとの受け止めが広がれば今年4月の総選挙を戦うムン大統領の致命傷ともなりかねません。一方で、実施すれば日韓関係は破綻するともいわれる日本企業の資産の現金化は上半期中に完了する可能性もあり、残された時間は決して長くはありません。」

曾根英介（報告）「日韓関係の改善に向け有効な一手を繰り出せるのか今年はムン大統領の本気度と政治的な手腕が問われる一年になりそうです。」

このトピックに当てられた時間は219秒だった。

スタジオで日下部キャスターは「戦後最悪とも言われる日韓関係」とコメントしていたが、一体誰がこのようなことを言っているのだろうか。戦後日本というものをその起点を1945年に置くのか主権回復後の1952年に置くのかというので最悪だった時代はどこかというのは変わってくるかもしれないが、少なくとも竹島を一時的に占領し領有を宣言した李承晩ラインの時代であるとか、佐藤栄作政権での日韓基本条約以前の国交が樹立していなかった時代と比べても、今の日韓関係は最悪だと言えるかは甚だ疑問であろう。そうした点から誰が言っているのかも明らかにせず「戦後最悪とも言われる日韓関係」などと評するのは、放送法第四条一項三号の「報道は事実を曲げないですること」と照らして問題があるといえる。

・河野防衛大臣がたかなみを視察：

膳場キャスターの「来月中東に派遣される海上自衛隊のたかなみを、護衛艦たかなみを河野防衛大臣が視察し隊員を激励しました。」というコメントを受けて以下に朱記したようなVTRが取り上げられた。

"ナレ「護衛艦たかなみは日本関係船舶の安全確保に向けた情報収集のため、来月2日横須賀基地から中東海域に向け出航します。今日、視察に訪れた河野防衛大臣は派遣される隊員らを激励しました。河野大臣は派遣に合わせ護衛艦の環境に新たに取り付けられた防弾ガラスや大音量で警告を発する機器類などについて確認しました。」河野太郎防衛相「隊員を海外に送り出す、ご家族の心配の気持ちもよくわかりますので、防衛相、自衛隊として万全のバックアップができるようにしっかり準備を進めていきたい。」"

このトピックに当てられた時間は秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・【特集】イランとアメリカ～対立の原点：

膳場キャスターの「続いての特集はイラン緊急報告第2弾です。アメリカとの対立の原点に迫ります。」というコメントと金平キャスターの「8年ぶりにハメネイ氏が説教した金曜礼拝。そして緊張が高まるホルムズ海峡の現状を現場で取材しました。」というコメントを受けて以下に朱記したような特集が取り上げられていた。

群衆（字幕）「アメリカに死を」

ナレ「緊張が高まるホルムズ海峡は今」

金平「なんかあのずーっと列をなして」

ナレ「有事には封鎖される恐れも。」

イラン革命防衛隊元司令官（吹替）「その時は日本も含め、全ての国を攻撃するでしょう。」

"ナレ「一方で・・・」

若者（日本語）「アメリカと敵対するのは、意味がないでしょう。」"

ナレ「イランからの緊急報告。第 2 弾。」

ナレ「イランの首都テヘランから南におよそ 1400 km に位置するゲシュム島。目の前に広がるのは、ホルムズ海峡だ。」

ナレ「ここからボートに乗って沖合へと向かう。」

ナレ「イランとオマーンの間にあるホルムズ海峡。ペルシャ湾とオマーン湾を結び、原油や石油製品が運ばれる交通の要衝だ。」

ナレ「出港して間もなくタンカーが見えてきた。」

金平「ホルムズ海峡の航路にあたる部分に近づいてきました。えーと正面にタンカーが見えますですね。タンカーの後ろにズーっとなんか列を成して、石油タンカーと思われる、あるいは、輸送船もありますね。」

ナレ「原油の輸入を中東に依存する日本。全輸入量のおよそ 8 割が船でホルムズ海峡を通る。事態が緊迫したのは、去年 6 月のことだ。」

ナレ「ホルムズ海峡付近で日本のタンカーなどを 2 隻が攻撃されたのだ。アメリカはイランの関与を主張。イランは否定したが、2 週間後にはアメリカの無人偵察機をホルムズ海峡上空で撃墜した。」

トランプ大統領（字幕）「他国にはホルムズ海峡を航行する自国の船を守ること。アメリカと協力することを訴えたい。」

ナレ「アメリカは民間船舶の安全確保を目指すとして、各国に有志連合への参加を求めた。日本は有志連合には参加せず、独自の取り組みとして今月自衛隊を中東に派遣。活動範囲はホルムズ海峡を含めず、オマーン湾とアラビア海北部、アデン湾の公海とした。」

ナレ「イラン革命防衛隊の司令官だった。カムニ・モガダム氏は・・・」

カムニ氏（吹替）「ペルシャ湾で何かが起きて、アメリカが攻撃してきたら、アメリカに味方する国の船はすべてイランの敵だとみなします。その時は日本を含め、すべての国の船を攻撃するでしょう。そんな事態になってほしくないです。」

カムニ氏（吹替）「トランプ大統領は正気ではありません。まさか日本が自分の運命をそんな人に委ねるとは思いません。」

ナレ「ホルムズ海峡をさらに沖合へと進む。」

金平「でかいねこのタンカーね。近くで見るとやっぱりものすごく大きなタンカーで、上レーダーが回ってますから。まっ今積んではいないのかもしれませんが。こういうのは何隻もこのホルムズ海峡を行きぎしてるんですね。これね。」

ナレ「その後ろには」

金平「本当だ。沈んでる。オイルを積んでると、こういう風に船体はかなり海中に沈んでるってのがわかる。これはそうですね。ノースモーキングって書いてある。やっぱり石油積んでるからここでタバコ吸っちゃダメなんだ。あつ人の姿が見える。えーと手を振ってますね。こっちにね。」

金平「石油タンク」

ナレ「ゲシュム島の港に白い石油タンクが見える。ここから船に石油が積み込まれると言う。」

金平「船体がかなりの海に沈んでるんで、積み込んでるところかもしれません。」

金平「えーとあちらがオマーンですね。こっちの逆の方がですね、あれはイランのほうですね。イランはもちろんホルムズ海峡のほう睨んで、様々な防衛線と言うんですかね。軍備を準備してますけども、逆にあちら側のほうのオマーン側のほうにはアメリカの海軍ですとか、あるいはサウジですね。対峙する形で、軍備を固めてるって事で、まここの海の状態を見ただけではなかなかわからないんですけども、この穏やかな海の状態が続い

て欲しいと思いますですけどね。」

ナレ「島は賑わいを見せ、地元のレストランには観光客も多く訪れていた。」

ナレ「地元の漁師に話を聞いてみた。」

記者（吹替）「ホルムズ海峡は安全ですか？」

地元の漁師（吹替）「とても安全ですよ。心配ありません。」

金平（字幕）「日本の自衛隊は必要あるか？」

地元の漁師（吹替）「どの船も安全に航行してます。」

地元の漁師（吹替）「革命防衛隊がいるので必要ないです。」

ナレ「40年以上対立が続くイランとアメリカ。原点となった場所を訪ねた。」

金平「アメリカ大使館が人質となった1979年のアメリカ大使館の建物ですけども、とにかくここで命がけで渡んなきゃいけないんで。」

ナレ「アメリカ大使館だった建物だ。1979年のイラン革命で、反米を掲げる学生たちが、アメリカ大使館を占拠。52人のアメリカ人が444日間にわたって人質にされた。現在は博物館として当時の設備や文書が公開されている。」

金平「昔のアメリカ大使館そのままのものが、こう展示してあるんですけど、これがですね執務室の所に、秘密書類ですねシークレットって書いてある秘密書類がそのままわざと」

ナレ「人質事件の際に通訳と広報を務めたのが、マスメ・エフデカール氏。アメリカで育ち当時は大学生だった。現在副大統領として女性の権利などを担当している。」

マスメ女史（吹替）「革命に参加したのはイランの独立と尊厳、そして革命を守るためです。革命の後、女性の地位を向上させるために様々な取り組みを行いました。例えばイラン女性の識字率は革命前には35%でしたが現在では97%以上になっています。」

ナレ「アメリカをよく知る副大統領は、アメリカの中東政策をどう見ているのか。」

マスメ副大統領（吹替）「そもそもアメリカは中東地域で何をしているのでしょうか。ここはアメリカの首都から1万キロも離れた別の大陸です。」

マスメ副大統領（吹替）「この地域はここに暮らす人々のものなのです。」

ナレ「イランとアメリカの対立はどこへ向かうのか。焦点となるのは、核合意の行方だ。」

ブッシュ大統領（当時）（字幕）「イランは大量破壊兵器を追い求め、テロを輸出している。これらの国家とテロリストは悪の枢軸をなすものだ。」

ナレ「2002年ウラン濃縮施設が見つかったことをきっかけにイランの核開発疑惑が浮上。アメリカなどは原油の金融や金融制裁の措置をとってきた。」

ナレ「関係が改善したのは、2015年オバマ政権の時だ。イランと欧米など6か国は、ウラン濃縮を制限する代わりに、制裁を解除することで合意した。しかし」

トランプ大統領（吹替）「現在の合意の腐りきった構造では、イランの核兵器を阻止できないことは明らか。」

ナレ「おとしトランプ大統領は、一方的に核合意からの離脱を表明。経済制裁を再開した。」

ナレ「対するイランのロウハニ大統領は、先週核合意の制限は現在受けていないとした上でこう言い切った。」

ロウハニ大統領（字幕）「1日のウラン濃縮量は核合意の前よりも多くなっている」

ナレ「ザリフ外相のアドバイザーを勤め、外交政策に関わってきたホセイン・シャイホレスラム氏は」

ホセイン氏（吹替）「トランプ大統領が、核合意から離脱したことで、この混乱が生じました、責任は彼にあります。我々は核合意から離脱していません。イランでは誰も核兵器を保有したいと思っていません。宗教上も核兵

器は否定されていて、保有は認められません。」

ナレ「トランプ大統領はさらに核合意に参加しているイギリスフランスドイツに対して、制裁を再開するように求めている。」

ナレ「そのヨーロッパ3カ国は先週、制裁の再開につながる手続きに踏み切った。」

ナレ「こうした動きにエブテカール副大統領は、」

エブテカール副大統領（吹替）核合意には多国間合意です全ての当事者が合意に即してそれぞれの役割を果たさなければなりません。ヨーロッパのパートナーの皆さんは、中東でのバランスを保ちテロと戦ってきたイランの役割を分かってもらえればと思います。」

ナレ「先週金曜日、テヘラン市内は物々しい雰囲気にも包まれていた。」

金平「非常に厳しい警備が行われていて、交差点の辻々に警察官、パトカーが止まっていて」

ナレ「モスクに続く道路が封鎖され、厳重な警備体制が敷かれている。」

金平「続々と 人々は金曜日の礼拝に詰めかけています。」

ナレ「イスラム教では、金曜日が休日。モスクに集まり、合同で礼拝する日とされている。」

金平「スレイマニ司令官の殺害とウクライナ機の誤爆という2つの悲劇が起きてから最高指導者ハメネイ師が国民の前に姿を現すのは、今日が初めての機会ということで、特別の意味があるような礼拝ということでたくさんの人たちがこういう風におしかけていますですね。」

ナレ「最高指導者ハメネイ師金曜礼拝で説教をするのは異例で、8年ぶりのことだ。」

男性「アメリカに死を」

ナレ「モスクの周辺では、星条旗を踏みつけるなど、アメリカを非難する光景が見られた。」

ナレ「さらに進むと」

ナレ「撮影を止められた。ハメネイ氏が説教する場合に限り礼拝は、ハメネイ氏直轄の革命防衛隊が取り仕切っている。モスクの中は普段海外メディアも取材できるが、この日は立ち入りも許されなかった。」

金平「今ドアが閉められ、入口のドアが閉められ。中に入ろうとして人々が殺到してますけども」

ナレ「多くの人々が殺到したため、モスクへの入場が規制された。」

革命防衛隊（字幕）「カメラを止める！！」

ナレ「モスクに入れなかった大勢の人達。どこへ向かうのか」

ナレ「イランの最高指導者ハメネイ氏が8年ぶりに金曜礼拝で説教をする。」

金平「またアメリカ国旗の星条旗がまた道路に敷かれていて、踏まないともまた前に行けないように」

少年（字幕）「アメリカに死を！！」

金平「あああそこにモニターがあるね。」

ナレ「大型ビジョンにモスクの内部が中継で映し出される。」

金平「僕らの周りが全部礼拝をする人で埋まってしまった。」

ナレ「人々は路上でハメネイ氏の言葉に耳を傾ける。」

金平「なんか凄い歓声がここまで響いてきて、あっ出てきた。最高指導者ハメネイ氏の姿をあらわしたところですね。モニターを通じて今見られますけども」

群衆（字幕）「兵隊として参りました。指導者の指示に参りました。」

ナレ「ハメネイ氏は、説教の冒頭、アメリカに殺害されたスレイマニ司令官について言及した。」

ハメネイ氏（字幕）「ソレイマニ司令官が中東地域のテロリストと戦ったのは、まぎれもない事実だ。」

ハメネイ氏（字幕）「トランプ大統領は自ら『テロ行為した』と認めたようなもの」

ナレ「ヨーロッパ3か国による経済制裁再開の動きも厳しく批判した。」

ハメネイ氏（字幕）「ヨーロッパ3か国はアメリカの使い走りだ。彼らはイラン国民を屈服させようとしている。ではどうすればいいのか一言で言おう。イラン国民はもっと強くなるべきだ。」

群衆（字幕）「アッラーは偉大なり！ハメネイ師こそ指導者だ。」

ハメネイ氏（字幕）「国民に残された唯一の道はつよくなる事だ。我々の成功のためには、このように集まり団結することが重要だ。」

ナレ「そして祈りが捧げられた。」

金平（字幕）「ハメネイ師の説教を聞いてどう思いましたか？」

男性（吹替）「私たちはハメネイ師を支えるために集まりました。アメリカへの報復はまだ足りていません。ハメネイ師がさらなる報復を命じれば私たちは行動に出ます。」

ナレ「礼拝の後にはデモも行われた。この日の礼拝とデモには公務員や低所得者が食事付きで動員されていたという。」

男性（吹替）「目当てのサンドイッチを食べたからもう帰るよ。」

ナレ「親日国のイラン。日本語を話す若者にあった。」

ナレ「30歳のニマさんは2014年から1年間日本に留学していた。」

ニマさん（日本語）「僕の友達ほとんど日本人です。」

金平「未来に希望を持っていますか？」

ニマさん「今はちょっと失望している状態かも知れませんが、将来も同じようにならないと僕は思います。早く仲直りしてほしい。あのアメリカが一番強い国で、アメリカと敵対するのは、意味がないでしょう。」

ナレ「経済制裁の影響でイラン国内に仕事が少ないため海外に出ようとする若者も多いという。」

ナレ「22歳のマティーンさんは」

マティーンさん（吹替）「イランの状況は厳しいので、とにかく海外に出たいです。留学でも移住でもいい。カナダかオーストラリア条件があえばどちらでもいいです。」

ナレ「イランのミサイル誤射によって亡くなったウクライナ旅客機の乗客の中には、カナダに留学していた学生も多かった。」

ナレ「ニマさんは日本への思いをこう話す。」

ニマさん「日本の若い人達は、一年間いろいろ僕に優しくしてくれて、どうもありがとうございます。絶対忘れないし、そしてイランの事を恐れず、心配せず安心してイランを訪問してください。」

特集を受けて以下に朱記したようなやり取りが繰り返されられた。

膳場「金平さん今回の取材で、イランの副大統領から一般家庭の市民まで幅広い人に会って来てますけれども、どうでしょう実際に接してみてどう感じましたか？」

金平「なんかね一番の印象は親日的だということなんですけども、8日間の滞在だったんですけども、イランと言うとその革命防衛隊とかね、それから厳格な宗教国家っていうステレオタイプなイメージを持ちがちなんですけども、一般市民は会ってみると言うことやっぱ普通の人でね、喜怒哀楽があってあのペルシャの長い歴史をそういう非常に誇りを持って生きているという感じがしましたですね。ただ経済制裁にはすごく苦しんでるのはあったんですけども、その一番最後に出てきた若い日本語を話す人ね。まあ彼なんかはやっぱ限られた一部の味方の人かもしれないんですけど、イランの将来ってのはああいう若い人たちがどれぐらい希望を持ってるかということに託されてるだと思いました。」

日下部「それにしてもホルムズ海峡ですね。緊迫の海域というイメージとはちょっと違ったような気もするんで

すけど。」

金平「そうですね行った時はちっちゃな船を直接借りて行ったんですけども、カーゴとかタンカーとか列をなしてて、穏やかでお天気が良くて、あの紛争直後のような緊張感というのはなかったんですけども、まだあの物流が止まったらどうなるのかなってという想像がなかなか難しかったですね。なのでその周辺の海域に自衛隊が行くわけですよね。で1年もの間行くわけで、そこでその調査研究っていうのは一体何やるのかなってというような思いを持ちましたですね。でさっきもいしましたがイラン政府とかあのイラン国民の親日感情とかとっても強くてね、テレビでおしんだけじゃなくて北の国からとか。なんか歌とか全部歌ってくれましたよ。僕らのためにね。でその日本はそういう一種の財産があるわけですからそういう外交的な手段によってイランとの関係ももっとも改善できるんじゃないかとおもいましたですね。自衛隊を派遣するようなやり方とは違うやり方がまだ残っているんじゃないかなっていう風に思いましたですけどね。」

この特集に当てられた時間は1500秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

・日韓関係

スタジオで日下部キャスターは「戦後最悪とも言われる日韓関係」とのコメントで導入がされていたが、今の日韓関係が良好かどうかは別にしても、少なくとも「戦後最悪」とは到底呼べないほど、過去にもっと関係の悪い時期があったことは確かである。それにも関わらず、「今を最悪」と評するのは、日韓関係および戦後日本の歩みに対して誤った印象を与えるものと言えるだろう。

検証者所感

・オープニング

金平キャスター「ええ、通常国会が始まりました、桜を見る会、IR疑惑、河井前法務大臣夫妻の疑惑、これらに対する首相の答弁を聞いておりますと、責任という言葉がもはや死語になったかのようです、去年なくなった日本人医師、中村哲さんの言葉が身にしみます、口先だけではなく、行動で示せ。」とコメントしていたが、桜を見る会はともかくとして、IR疑惑は秋元議員や白須賀議員たちの話であるし、河井夫妻の疑惑はまさしく河井克行議員と河井案里議員の話であって、これに対して総理大臣が「責任を取る」というのはどういうことであろうか。こちらの問題について責任を取るべきはまさしく当事者である秋元議員や河井夫妻らであって、これに対して総理大臣であるとか、秋元議員の派閥のボスである二階幹事長が代わりに責任を取る、ということになれば、国会議員の地位・立場というのはますます政党執行部や官邸に対して弱くなってしまわないだろうか。

・日韓関係

日本と韓国の関係であるが、冷戦が終結したこともあり、政治的には難しいところもあるのかもしれないが、これまでの歩みを振り返っても、今で言うリベラル、昔は革新だとか左派と言われていた人たちは随分と韓国に対して好意的になってきたとも言える。こうした日韓関係の歩みやそれに対する世論というのを振り返って見る特集があってもいいのではないだろうか。